

環境防災学講座 平成 25 年度修了生からのメッセージ

大村さつき，社会人特別選抜学生，

現所属：応用地質（株）東京支社ジオテクニカルセンター

1. 環境防災学講座での修士研究について

- ・土砂災害防止におけるソフト対策の分野について、心理学・統計学の知見も組み合わせ、防災の担当者が少数であっても大規模に実施可能な手法の研究をおこなうことが出来た。
- ・県の砂防課の方、市町村の危機管理の方、自主防災の組織の方からヒアリングをすることが出来、それぞれの立場での状況や取組みについて話を伺うことが出来た。
- ・研究の取り組みの一環として、行政・自主防災会それぞれが行なっている活動を見学だけでなく、実際に参加させていただくことが出来た。

2. 環境防災学プログラムについて

- ・国、県、市町村、自主防災の方々が講師として来られ、災害が発生してからどのように法整備が進み、現在どのような取組みが行われているかについて、系統だった知識を講義の中で得ることが出来た。また、教育分野やリスクコミュニケーションといった防災関連分野の講義もあり、大変興味深かった。
- ・実践実習では、砂防工事現場と建設資材再生工場という同じ防災分野ではあるものの、所属会社では経験できない分野の会社で実習をさせていただき、視野が広がった。
- ・数多くの災害および対策工の現場を、現地の職員の方のお話を伺いながら見せていただき、当時の警戒避難の状況や、対策工施工時の課題、それらに対し、どのような対応を取られてきたかについて、お話を伺うことが出来た。
- ・最新の国の施策や動向、災害事例とその対応について等を、所属会社にフィードバックすることが出来た。

3. 現在、会社で役に立ったと実感できること

- ・授業や現地調査で収集した、全国の災害事例や施設事例、防災の取り組み事例について資料や写真が手元にあり、社内の「〇〇の事例について資料がないか？」という問い合わせに対応できるようになった。
- ・打合せ時に、具体的な事例を引用して説明や提案が出来るようになった。

4. その他感想

- ・本講座が縁でお会いした方から、シンポジウムのパネリスト・講演会講師へご推薦いただき、初めてパネリスト・講師を経験した。貴重な経験をさせていただいた。
- ・総合大学である筑波大学に講座があるため、他分野についての授業を受けることも可能である。河川や道路行政、社会システムや心理学といった他分野の授業を受けたことは研究の上でも役に立った。

5. 後輩に期待すること

・砂防分野の現役で活躍されている方々から、直接お話を聞ける貴重な講座・プログラムであると思います。社会人学生の方は自分の仕事と照らし合わせて、一般学生の方は将来の進路の 1 つとして考えていただき、学生という立場を利用して、いろいろと質問をしてみるといいのではないかと思います。